



事務所行事 お花見レポート

1月中旬から短期アルバイトの事務員としてお世話になりました大嶋美沙と申します。

4月の初旬、事務所の恒例行事であるお花見に連れて行ってくださいました。連日雨が続けていましたが、当日はちょうど晴れてくれました！晴れ女の自覚があるので少し誇らしかったです。笑
桜も見頃の時期で、姫路城の周辺はピンクの景色が広がっていました！

初めは風が強く少し肌寒かったですが、どんどん日が照ってきてお弁当を食べるときにはポカポカしていました。事務所の方々とは、普段は忙しく中々ゆっくりお話しする機会がなかったのですが、この日はのんびり談笑できて楽しかったです。駅前のピオレが最近充実してきていて嬉しいお話をしました。スタバのティー専門店が出来た時はかなり嬉しかったです♪

その後は姫路市立動物園に行きました！昔からある動物園のようですが、私は初めて行ったのでとても新鮮でした。大好きな羊が見れたり、大きなキリンやカバなど迫力のある動物にも会えて大満足です。私はポケモンが大好きなので、ゲームコーナーでピカチュウに会えて嬉しかったです♡



3ヶ月間お世話になりました！

短い間でしたが、約3ヶ月間ありがとうございました。いつも側で支えてくださった事務局の方々には大変お世話になりました。分からないことがあっても、いつも優しくかつ的確な指示をくださり、こんな素敵な大人になりたいと思いました。

また、弁護士の先生方は休む暇もなくお忙しく働かれていて、困っている方々の為に奔走する姿は私の目にとってもかっこよく映っていました。みなさん心から尊敬する方々で、素敵な出会いだったなと感じます。違う道ではありますが、私もかっこいい大人になれるように日々努力を怠らず尽力して参ります。最後になりますが、関わってくださった皆様、本当にありがとうございました！

Pikachu!!!



編集後記

市民法律だより第33号は、いかがだったでしょうか。年明けから、当事務所にアルバイトとして来られた大嶋美沙さんは、ウェブデザイナーの夢を追いかける専門学校生で、今回の事務所報の作成にも、力を発揮していただきました。大嶋さんの新しい「風」は、とても新鮮で、数か月でしたが、とても楽しい時間でした。(E)

お盆休みのお知らせ

8月12日(水)
～15日(土)

お休みとさせていただきます。

発行責任者

ひめじ市民法律事務所 弁護士 平田元秀

TEL 079-282-0430 FAX 079-282-0433

〒670-0952 姫路市南条10-4

事務所営業時間

月～金 午前9時30分～午後6時

土曜日 午前中 予約相談あり

<https://himejishimin.com/>

ひめじ市民法律事務所

市民法律だより

暑中お見舞い申し上げます

この地球の上で、とファールブルさんはいった。
人間はまだ、しわくちやの下書きにすぎない。
われわれ貧しい人間にさすかったもののうちで、
いちばん人間らしいものとは、何だろうか。
「なぜ」という問い、とファールブルさんはいった。
ものの不思議をたずね、辛抱づよく考えぬくこと。
探究は、たくましい頭を必要とする労働だ。
耳で考え、目で考え、足で考え、手で考えるのだ。

「長田弘詩集」

(二〇二三年四月・株式会社角川春樹事務所)

「ファールブルさん」より

今、私達は、巨大テック企業数社が独占する「検索窓」や「生成AI」と、手のひらのスマホでつながって、日々を過ごしています。

初夏、山を歩いて、花びら5枚の白い花を沢山吊り下げた木を見つけます。爽やかな香り。なんだろう？カメラを向けると、AIは「エゴノキです」と。そっかあ。砂防堰堤の池に向けて枝を伸ばす木の先にぶら下がる綿菓子大の白い泡。蛙の卵だけど、なんだった？「モリアオガエルです」。そっかあ。

名前を覚えたのはAIのおかげ。でも、ここから自然に何が起きているかを、辛抱づよく考え抜くのは、人間の仕事です。産業革命前と比べて、世界の平均気温の上昇は、もう「1.5度」を超えました。春が短く、夏が長く続く二季化が日本でも進んでいます。法律家は、住める土地と食料・資源をめぐる戦争が起こらないよう、考えをめぐらせねばなりません。

今年の夏も厳しい猛暑となる見込みです。無理をせず、涼しい場所を確保し、健康で元気に過ごされるよう祈念して、夏のご挨拶と致します。

CONTENT

暑中お見舞いご挨拶	1
弁護士の小話	2
退所のご挨拶	3
完ライブ記	3
事務所行事とご挨拶	4
お盆休みのお知らせ	4
編集後記	4

2026年(令和8年)7月 所員一同

生成AIと戦争と

ひとしんせい

「人新世の『黙示録』」 平田 元秀



2026年の上半期に私がとらわれているテーマの1位は生成AI、2位は戦争、3位は供給不足・気候危機です。本としては斎藤幸平さんの「人新世の『黙示録』」(集英社2026年4月)を読み、彼やユヴァル・ノア・ハラリ氏が出演するYouTubeなどを涉猟しています。

生成AI

ChatGPT(Copilot)や、Geminiなどの生成AIは、2025年秋ころから、PC、スマホの検索窓等に実装されるようになりました。弁護士の仕事は、広範な法律知識を背景に、頭を使って判断・分析・理解・表現・創造を行う知的活動ですが、生成AIは、こうした活動に付随する事務的機械的作業だけでなく、弁護士の認知労働の一部をも、こちらの指示に併せて手伝うようになっています。依頼者や顧問先、事件の相手方等も、AIに手伝わせて書いてきていると感じる場面が急速に増えています。利用が急速に日常化する一方で、基礎的なリテラシーが追いつかず、思わぬ不整合が生じる危険も日常化しています。

生成AIが媒介するジレンマ

5月25日に巨人の元監督阿部さんの家庭に起きた出来事は、姉妹喧嘩を止めようとして長女と口論になり、カットとなって胸ぐらをつかんで押し倒したという経緯であり、本来なら、どこかで「ちょっと待て、これは家庭内の軽微なトラブルだ」という「調整」が働くはずの案件でした。父の現行犯逮捕時、長女も泣き崩れたといえます。長女は、初めての父との身体的衝突の不安をAIに相談し、匿名と思ひ込み児童相談所とチャットし、児童相談所は暴行被害が特定された以上、警察に通報。警察は、有名人だからこそ忖度を疑われたくないのマニュアル通り現行犯逮捕。それぞれが「合理的」に動いた結果、家庭も社会も行政も誰も幸せにしない結果が生まれました。「囚人のジレンマ」の典型例が駆動したといえます。この現在東京の位相に、AI相談が食い込んでいます。

ハラリは、AIによる「繭(コクーン)化」を警告しました。AIの標準的アルゴリズムは、個人を「安全第一の情報空間」に閉じ込める性質を孕んでいるとの指摘です。加えて、AIが媒介する通報では、現実の文脈(家庭の関係性・軽微性・本人の意図)を読み取れない。文脈喪失により、バトンが「最悪の結果回避」側に倒される。この危険が現実化したものと思われます。

戦争

筑波大教授の東野篤子氏(国際政治学)は朝日新聞の論考(5月30日)で、大国の侵略を許せば国際秩序が壊れ、日本の安全保障コストは跳ね上がる、それゆえ、ウクライナ支援は「正しさ」であると同時に「現実的利益」でもあると述べる一方で、「軍事か外交か」ではなく「軍事も外交も」強化することが重要だと述べています。ハラリ氏も、「軍事費の歴史的低下が、戦後の人権・福祉国家・自由社会の基盤をつくった」と述べる一方で(サピエンス全史)、「平和を維持するための投資を怠れば、その繁栄は失われる。」と述べています(TED等)。「軍事も」強化することが重要としても、日本の場合、その行為が憲法秩序の根幹にある平和主義(憲法前文、9条)の規範との間で緊張関係を生じさせることは自明です。デジタル空間・宇宙空間を含めた軍拡競争のまっただ中の難しい時代を生きています。

供給不足・気候危機

でも今、最も注目したいのは、気候崩壊による恒久欠乏経済が始まることを認めることから始めようとする「人新世の『黙示録』」です。絶望の中に希望を見いだそうと格闘する知性の書。折しも昨夜、ロックバンドの「羊文学」がMJAで受賞した楽曲「声」の中で、「二度と戻れないあの日々が私を導いていくからどんなに長い夜の先にも必ず明日を繋ぐから信じてほしい」と歌いました。両者は響き合っています。

私達は、「資本主義という物質依存症」、この「地球の有限性に関する否認の病氣」と、そろそろ本気で向かい合わなければならないのでしょうか。

(2026年6月13日記)

Message

退所のご挨拶

謹啓 平素よりひめじ市民法律事務所にご厚情賜り誠に有り難うございます。

さて、私、大川亜希は、令和8年3月31日をもって、ひめじ市民法律事務所を退職いたしました。

これまで担当させていただいた全ての事件や業務を通じて、多くの法的問題解決や成長の機会をいただきました。

皆様方のご厚情とご支援に、心より感謝申し上げます。

また、平田弁護士はじめ事務所の事務員の方々にはいつもあたたかく見守っていただき、助けていただきました。

本当にありがとうございました。

敬具
弁護士 大川亜希

完ライブ記



第一章 ～嵐、始動～

昨年5月、2021年から活動を休止していたアイドルグループ「嵐」が活動再開を発表しました。休止中も個々の活動を見守ってきたファンクラブ会員としては、待ち焦がれた瞬間でした。そして、同時に嵐としての活動が2026年5月31日をもって終了することも、嵐5人の言葉で丁寧に告げられました。2026年春に予定されているコンサートツアーをもって嵐としての活動を終える…。休止前は、コロナ禍で有観客のLiveが行えず、ファンに直接会って感謝の思いを伝えられなかったことに対する、嵐の誠意でした。だから、この発表を聞いた瞬間は、活動を終了してしまうということよりも、「もう一度、会えるかも」という気持ちの方が大きかったのを覚えています。

第二章 ～もう一度会いたい～

皆さんが嵐を知ったきっかけや時期は様々だと思いますが、私を嵐に結び付けてくれたのは、娘でした。娘は、2007年に放送されたドラマ「山田太郎ものがたり」に出ている櫻井翔くんを見て、「こんなカッコイイ人がいるんだ」と、嵐のファンになったそうです。娘の人生のそばには、いつも嵐がいて、彼女の背中を押してくれる嵐を、いつしか私も応援するようになっていました。そして、一緒にLiveに行くことも私達の人生の彩りになっていました。ですから、今回のラストツアーは、絶対に行きたい。そして、嵐に26年分のお礼が言いたい。私達だけでなく、ファンクラブ会員全員が同じ気持ちだったでしょう。嵐から、ツアー日程が発表されたのは、それから半年後の11月でした。気になる公演は、2026年3月13日の札幌公演からスタートし、5月31日の東京ドームでファイナルを迎えるという全15公演の5大ドームツアーでした。

どこの、どの日程なら当たるのか、たくさん考えて、申し込んだ第一希望の会場は、札幌ドームでした。2019年の20周年ツアーで当選したのが札幌だったこともあり、当たるなら札幌しかないという思いと、その時と同じホテルで、想い出を再びという思いからでした。発表の日。これほどソワソワした日はありませんでした。娘から喜びの連絡が入り、第一希望の札幌ドームで当選したことが分かりました。その日から、どんなことも乗り越えられる。私を動かす力になる。そんな力が「嵐」にありました。

第三章 ～嵐との再会 そして別れ～

3月15日。私達は、再び、嵐に会うことができました。開演5分前、舞台裏の円陣の声出しがスタンド席の私達にもハッキリ聞こえてきました。会場が「あらし」コールで最高潮に達した瞬間、ステージ上段にキラキラ光る5人の姿が。ドームの天井が落ちるんじゃないかと思うくらいの歓声に包まれました。Liveで披露された曲は、全部で33曲。曲に合わせて制御されたペンライトの海。水あり炎ありの演出。ファンの近くへという思いで設置されたムービングステージやスタンド上段まで届きそうな高さのバルーンなど、壮大な演出が用意されていました。どこまでも最高のエンターテインメント。Live中、何度も交わされる「ありがとう」の言葉。嵐への感謝。嵐からの感謝。3時間を超えるLiveは、楽しくも温かい感謝が行き交う特別な空間でした。そして、Live終わり、席で嵐を見送った私は娘とハグをしながら、娘にも「ありがとう」と告げました。

Liveのたびに、始発電車に乗り込んでグッズを買いに行ったことも、Live前夜、夜遅くまでうちわを手作りの記憶も、きっとこれからの娘の人生を輝かせてくれるだろう。そんな風に思わせてくれる「嵐」に感謝。そして、嵐が見せてくれた景色と同じくらい、その時の娘のぬくもりを “忘れないでいよう” (E)